

## ごあいさつ

### 「リフレッシュオープンを迎えて」



館長 伊 瀬 重 雄

#### 1 施設の大規模改修の実施

当館は、自然史博物館として昭和56年11月に開館し、開館以来約30年を経過し施設が老朽化したことから、平成23年9月から約1年1月間休館し、施設の大規模改修を行いました。

長期間の休館により、地元の長瀨町を初めとして多くの方にご迷惑をおかけし、改めてお詫びを申し上げます。

お陰様で大規模改修が終了し、平成24年10月6日から再オープンすることができました。長期間の休館後の再オープンですので、来館者の皆様にとって安心・安全な施設であるとともに、一部の展示の見直しなどを行い、「リフレッシュオープン」として再スタートを切ることといたしました。

#### 2 リフレッシュオープンの目玉

##### (1)体験ゾーンの新設

リフレッシュオープンの目玉の一つ目は、子供達が理科の様々な体験により自然と学ぶことができる「体験ゾーン」の新設です。パレオパラドキシアの展示を移動するなどしてスペースを生み出し、体験できるディスカバリーコーナーをつくることにより既存の触れるはく製コーナーなどと合わせてゾーンとして新設しました。

##### (2)ジオパーク秩父のガイダンス機能の充実

二つ目は、企画展「ジオパーク秩父へのいざない」の開催です。平成23年9月に秩父地域がジオパークに認定され、当博物館はジオパーク秩父のガイダンス施設としての役割を担うこととなりました。この企画展とともに、企画展終了後は常設展示の一部を見直し、ジオパーク秩父のガイダンス機能を果たしてまいります。

##### (3)カエデの森の新設

三つ目は、観察園「カエデの森」です。平成23年度に21種37本のカエデを植栽しました。既存のカエデとともに、博物館の屋外の魅力も高めてまいります。

##### (4)解説ボランティアの導入

四つ目は、「解説ボランティア」の導入です。10名のボランティアの方のご協力で実現しました。学芸員による解説とともに、より分かりやすい博物館を目指してまいります。

#### 3 リフレッシュオープン記念イベント

そして、10月6日（土）から10月8日（月）の祝日までの3日間には、リフレッシュオープンの記念イベントを開催し、恐竜化石の組み立てデモンストラーションや友の会のご協力によるミュージアムショップを開催し、3日間で6,532人の来館者をお迎えすることができました。

秩父地域振興センターなどの関係機関や秩父鉄道株式会社を初めとする地域の皆様のご協力にも感謝を申し上げます。

#### 4 今後の博物館の魅力づくり

さて、お陰様でリフレッシュオープンは好調なスタート切れたと考えておりますが、大切なのはこの好調を持続することです。

県立博物館として、県民の皆様の目線を常に意識し、次の三つを実現することにより博物館の魅力を高めてまいります。

##### (1)展示や展示解説の不断の見直し

当館は、小学生から専門家まで様々な来館者をお迎えします。同じ展示や解説で全てのお客様にご満足いただくことは難しいことですが、例えば解説リーフレットをお客様に応じて複数ご用意するなどの見直しを行うことにより、分かりやすい博物館を目指してまいります。

##### (2)体験ゾーンの充実

新設しました体験ゾーンはお陰様で好評をいただいておりますが、今後は学校のご要望などもいただき、学年や学習進度などをより意識した体験ゾーンとしてまいります。

##### (3)観光資源化

当館は県下有数の観光地である長瀨町に位置しています。名勝地「長瀨」の自然はもとより、ジオパーク秩父のガイダンス機能を充実させ、博物館自身が観光地長瀨にとって不可欠な存在になれるよう努力してまいります。

どうか多くの皆様のご来館をいただけますよう、心からお願いいたします。

(しづさわ しげお・館長)